

「旭市のまちづくり」事業者意見交換会 調査結果報告書



令和6年2月

旭市

目 次

I. 実施概要	1
1. 調査の目的	1
2. 会議概要	1
II. 各回の開催概要について	2
1. 第1回	2
2. 第2回	6
3. 全体のまとめ	10

I. 実施概要

1. 調査の目的

本調査は、第3期旭市総合戦略の策定にあたり実施したアンケート結果を基に、官民連携のまちづくりに関する事業者の具体的な声を収集し、策定に向けた基礎資料とすることを目的として実施しました。

2. 会議概要

① 実施概要

会議は全2回とし、旭市の課題解決及と官民連携のまちづくりに向けた取組方向、及びその実現のために取り組むべきことなどについて、グループワーク形式で検討しました。

② 開催日時及び場所

	日 程	時 間	場 所
第1回	12月21日（木）	18時半～20時	旭市役所 1階 市民ホール
第2回	1月26日（金）		

③ 参加者

アンケートで具体的な課題や要望、総合戦略への期待を回答していただいた方、また、商工会の意向などを踏まえ20社を選定して実施（3グループで実施）。

④ 各回のテーマ

第1回 (12月)	● 事業所アンケート結果概要の説明 ● 旭市の課題解決及び「官民連携のまちづくり」に向けた取組・方向性の検討・提案（グループワーク）
第2回 (1月)	● 「官民連携のまちづくり」に関する先進事例紹介 ● 「官民連携のまちづくり」に関する具体的な提案（グループワーク）

II. 各回の開催概要について

1. 第1回

① 開催日時

令和5年12月21日（木）午後6時30分～

② 検討テーマ

②-1 経営課題

②-2 旭市の課題解決及び官民連携のまちづくりに向けた取組・方向性

③ 意見交換会の流れ

内容	
趣旨説明	挨拶・趣旨説明
出席者紹介	参加者を紹介
結果報告	事業所アンケート結果報告
内容説明	意見交換会の進め方の説明
ワーク①	【グループディスカッション①】 ・「経営課題」について — 日頃お考えのこと、アンケート結果を見て感じたこと — 人材確保・育成、働き方改革・女性活躍、育児・介護支援、IT活用・DX、SDGs・脱炭素…などについて自由にご発言いただく。
ワーク②	【グループディスカッション②】 ・旭市の課題解決及び「官民連携のまちづくり」向けた取組・方向性の検討・提案 — 日頃お考えのこと、アンケート結果を見て感じたことなど、何でも自由にご発言いただく ＜主に検討いただきたい3つのテーマ＞ ①雇用・働き方改革（人材確保、育成、福利厚生の実現など） ②商工業・農水産業の振興 ③移住・定住促進（地元の若者・移住者、UIJ ターン者） グループ内で個別にご発言いただく。
発表	グループ内での意見内容を発表
案内	次回の案内

④ 開催結果（第1回）

④-1 経営課題

分野	班	意見
人材確保・育成 (含:学校教育)	A	・人材確保、採用活動しているが難しい。
		・週3回(金土日)を、週5日雇用できるようにしたい。
		・業務が多様化し、従業員のスキルアップが重要。
	B	・従業員が少なく、人手不足が課題。
		・建設業は年代不問で募集するが、3Kで見つからない、続かない。
		・高校生に展望を持ってもらいたい。(学校の指導強化)
		・雇用したら、育成がある。
		・求人募集しても、梨のつぶて。(情報が届いていないのか。)
		・外国人の受け入れ体制が整っていない。
		・高校卒業して採用したが、一人暮らしがしたいと退職した。
		・結婚すると残業を希望する人がいる。
		・千葉の美容学校に行く子は東京に行ってしまう。
		・20年で3人働いていたが、地元に戻ってしまった。
		・高校生のアルバイトが2人来ている。(清掃担当だが感謝している。)
	C	・臨時で雇用している人がいるが、その人のおかげで助かっている。
		・養鶏場は、ずっと人手不足。外国人研修生がカバーしてくれている。
		・保険業界も集約に入っている。(小さいところは辞めてしまう。)
		・若いスタッフが入ったが、感覚が異なり、育成に悩みがある。
		・インターンで、付きっきりで教えるのも苦労がある。
		・大学卒業者を採用したい。
		・高校卒業者で、1人1社制により企業情報が不十分で入社後の離職が多い。
		・高校卒業者を募集する場合、ある程度の給与水準でないと応募が来ない。
従業員の高齢化対策	A	・従業員の高齢化と、若い職員が少ない。短期間でも退職も多い。 ・農業者の高齢化が進んでいる。就農希望者がいるが受け入れる仕組みが弱い。県や市、JAと連携した仕組みづくり。
	B	・従業員の高齢化。
原材料価格・人件費等コスト上昇	A	・小売店はコロナ以降、経営が厳しい状況(原材料の高騰)が続いている。
	B	・人件費・原材料費の上昇に対し、これ以上削れるところはなく、値上げもすぐできない。
各種助成・補助金等の支援	A	・小売りは補助金制度が無い。
		・人・物・金の資金繰りに困窮している。
	C	・事業用機械の購入における利子補填がほしい。
		・飲食店への支援も大事だが、サービス業への支援も望む。 ・江戸川区などは、住宅補助が出ていた。雇用確保でアパートに住むための補助。 ・農業は補助金が充実している。
人口減少・流出 (担い手・マーケット縮小)	A	・人口減少により家が建たない。 ・子育て世代が都市に流出している
	C	・人口減少により顧客が減っている。
市の魅力発信・地域資源の有効活用	A	・旭市の魅力を発信できていない。
		・旭市は落花生発祥の地。(月1回イベント実施している)
		・旭市は美味しいものがある。
		・飯岡海岸が遊泳できないため、観光資源を生かしきれていない。
交通アクセス・利便性	A	・旭市までの高速道路の早期完成を望む。
		・コミュニティバス等の公共交通が不便。(海岸まで行けるバス)
DX・IT・デジタル化、SDGs・脱炭素の推進	B	・DX面で、自動対応システムを導入しているが費用もかかる。
	C	・人材育成、機械の無人化、ICTを活用し生産性を上げることで、仕事が増えている。
		・食品ロスが出るが、SDGsの観点から市と取り組めることもある。 ・DX推進で、インボイスを機にシステム入れ替えたが、市の補助があると助かる。
働き方改革	B	・働き方改革で、残業を敬遠する。

④－２ 課題解決及び官民連携のまちづくりに向けた取組・方向

分野	班	意見
魅力(食・自然)発信・ブランド化	A	・食べ物のブランド化。
		・福井県鯖江市でのデザインによる伝え方で売り上げ20倍に、見たくなるサイト作り(設計力)。
		・旭市には既に良い物がある。価値を感じてほしい。県外の人には感動してくれる。
		・都内に住んで旭市の食の美味しさに気づいた。
		・安心したものを食べさせたいと思う子育て世代にPRしてほしい。
		・旭市は青いイメージ、空が広く、星が見える。
		・近隣に比べ飲食店が多いのは良い。
		・旭市は、食と人が魅力的である。
	B	・小学校の教育の中で旭市の魅力を伝えてほしい。
		・食べ物は高くても美味しかったら文句はない。(高い満足度)
農漁業振興(仕事・観光資源)	A	・海があるので、銚子市と組んで何かできたら良い。
		・旭市ライブカメラは高性能にして発信力向上。
	C	・旭市の知名度が低い。ブランディングに取り組む。
観光・商業振興	A	・都内の人々が旭は食べ物美味しいと言っていた。ブランディングに力を入れるべき。
		・永住には農業という職業が良い。
	B	・農業体験やアクティビティを観光資源に、都内の人には異次元な体験(農・漁)。
		・農業以外(水産業)の補助があれば。
	C	・サーファーにお金を落としてもらえるような仕組みに力を。
		・成田空港が近いが、外国人が来ない。
企業業績の改善・拡大	B	・観光があれば、若い人も残る理由になる。良い宿など招致してくれたら良い。
		・常総市の道の駅は賑わっているが、旭の道の駅も魅力がある。
	C	・観光面で、ペット同伴で宿泊できるホテルなどは、リピーター率が高い。
仕事の間づくり・企業誘致・雇用確保	A	・民間の大型施設、商店街などの衰退を市が関わっていけると良い。
		・イオンタウン周辺を中心としたまちづくりが、中心市街地まで波及してほしい。
	B	・収益が増えれば、福利厚生も充実し、好循環が生まれる。
		・家など安く借りれて仕事があれば、食には困らない。
	C	・若い人が流出しないための産業づくり。
外国人労働者の受け入れ	A	・大企業を誘致。
		・住んでいると分かりづらいが、資源は豊富である。今の産業を生かしつつ、新しいものを取り入れて。
	C	・IT企業は開発合宿で地方へ行く。(誘致してみても、空き家、温泉もあるので、人を呼びこめる。)
働き方改革、子育て・福祉支援	B	・IT企業は開発合宿で地方へ行く。(誘致してみても、空き家、温泉もあるので、人を呼びこめる。)
		・個々の事業者単独でなく、旭市全体で雇用確保に取り組むことが必要。
	C	・外国人の受け入れを市でやってもらえると良い。
		・外国人研修生の受け入れでアパートを1棟借りたり、購入したりしている。
	C	・定住・移住者促進で、両親共働きの場合、子どもを見てくれる場所や仕組みがほしい。
公共交通の利便性向上	A	・旭市は福祉が充実している。
		・介護現場は担い手が少ない。(ヘルパーの高齢化)
	C	・子ども食堂に食品を提供している。
空き家・空き店舗の有効活用	A	・旭市は小児科が少ない。
		・旭駅に駅員が居ないため、年配の方が切符を買えない。
	C	・物流の働きが起爆剤、銚子連絡道の早期完成。
その他	B	・公共交通機関が少ない。(車が無くても生活できれば移住者が増え、高齢者の免許返納も増える。)
		・空家・空き店舗の有効活用。
その他	A	・空き店舗は、住居と店舗が一緒になっている場合があるので、店舗のみ利用できる制度があると良い。
		・ふるさと納税のPRをもっと分かりやすく。
その他	C	・保健・医療面で、旭中央病院と綿密な連携をしたい。

⑤ 第1回 会場の様子



自社の経営課題について話す参加者



市の魅力や雇用確保への取り組みを話す参加者

ko

2. 第2回

① 開催日時

令和6年1月26日（金）午後6時30分～

② 検討テーマ

「官民連携によるまちづくり」

③ 意見交換会の流れ

内容	
挨拶	市長挨拶
写真撮影	全体で写真撮影
結果報告	第1回意見交換会の結果報告
情報共有	まちづくり・地域活性化に関する官民連携・地元企業の取組事例【参考資料】
内容説明	意見交換会の進め方の説明
ワーク	【グループディスカッション】 ・「官民連携によるまちづくり」について ○解決すべき(したい)地域課題 ○有効に活用できる地域資源 ○民間参画が可能な社会活動 ○官民連携で取組み可能な市の事業 ○官民連携の推進に向けて必要な役割分担 などの視点で、グループ内で自由にご発言いただく。 ※自社単独、民間企業同士、行政との連携のいずれの視点からでも可。
発表	グループ内での意見内容を発表
閉会	挨拶

④ 開催結果（第2回）

分野(取組方向)	班	意見・提案
魅力創出・発信、 ブランド化	A	・長く安心して住める住宅の提供。安心して暮らせる家を、ポータルサイトで発信。
		・「旭はこんなに良い町」であることを子どもにアピール(大人になって思い出してもらえよう)。
		・市でバスツアーを実施するなど、市に住んでもらえるような仕組みづくりが必要。
		・ふるさと納税の返礼品に、旭市の商品をもっと取り入れてほしい。
		・旭の未来を考え、生産年齢人口の減少をどう覆すか。
		・遊休地を宅地にする取り組み、格安で住宅を提供。
		・市外に出た人が戻ってきてもいいなと思える施策がもっと必要。
		・他自治体との差別化を打ち出さないと人は来ない。
		・人口を増やす施策にお金を注ぐべき。
		・旭市は日本トップに入るものを有する、それを知る人がどれだけいるか。これらを数値化して把握するべき、市の事をもっと分かる必要がある。強みを把握するべき。
		・「旭に住むならこれを約束します」くらいの強いインパクトあるテーマを打ち出していく必要がある。
	B	・ロケツーリズムは、メディアを使い情報発信している。旭市は劣っているところはない。
	C	・食べ物が全ておいしい。
		・新しい人を呼ぶ時に、環境が温かい。
		・情報発信は、専門家に依頼した方がよい。市でやれる事にも限界はある。
		・旭市の売りをもっと磨いてほしい。
		・道の駅をもっとアピールするべき、地元のスーパーになっている。
		・道の駅の発信力が足りない、官民連携で、食材と情報発信できる場が必要。
		・福井県鯖江市はデザインの専門家に依頼し、ふるさと納税が約20倍になった。
		・石川県千里浜は、民家の前に車で走れる砂浜がある。
		・旭市の海も努力が必要。ブルーフラッグビーチなどの国認証制度もある。
		・旭市の魅力は、自然と食。
観光・商業・農業 振興	A	・安全な食をアピール。
		・中央病院の職員は、市外から来て、一緒に家族も来ている。都内に行かなくても、医療や美容は充実している。
		・道の駅は美味しいものが沢山ある。(ハマグリ、ピーナッツなど)
	B	・全国を見て回ったが、ブランディングとPRが大事。
		・インスタなど、発信力に力を入れている。そういったところからも働く場として興味を持ってもらいたい。
		・力のある旭市の生産者をどうアピールしていくか。
		・「二世対決」のポスターを作り話題性を呼んだ(意欲のある後継者7名での取組)。
	C	・定住したら農作物をプレゼントするとか。農業、畜産が強いので生かしてほしい。
		・建設関係の友人を、補助金の相談で、商工会へ繋いだことがある。市役所は敷居が高いので、間に入るような人(旭マイスター)がいると良い。
		・農業は資金を支援してもらえるが、事業所はそうではない。
仕事づくり・雇用 確保	B	・産業が足りないと感じる。海があり、丘側に産業を呼び込めれば。
		・インバウンドへの取り組みが必要。
		・結婚して、旦那さんはフルで、奥さんはパートの場合は、農業にぜひ来てほしい。(茨城から働きに来る人もいる。)
	A	・海までの交通手段を充実させたい。
		・市に任せきりにせず、企業もやっていかないと人は来ない。
		・地方公務員や銀行員も副業しても良いのでは。人手不足解消になる。
	B	・クラウドファンディングの仕組みで産業不足に取り組む。資金を集めて起業するまで、市で協力できる仕組み、失敗してもフォロー・チャレンジできる環境があると良い。
		・全国的な課題として、人材不足があり現場が厳しくなる。
		・様々な現場で人手不足があり、市全体で取り組めるものがある。
	C	・合同企業説明会を発展させてみては。
		・他市の取り組みで、主婦の仕事コンビニは良い。

分野(取組方向)	班	意見・提案
働き方改革、子育て・福祉支援	A	・食品のライフライン、断水した時に、病院や老人ホームに水を届けた。もっと他の企業と協力できると良い。
		・茨城県境町は、ふるさと納税額が59億円で、「干し芋」「子育て支援日本一」をアピールし、英語に力を入れている。ホノルルホームステイは無料で、すべての子どもたちが英語を話せる街を掲げている。
		・子どもたちのために、住んでもいいと思えるかどうか。
		・「子ども」は大きなテーマ、未来をつくる存在、思い切った取り組みをするべき。
	B	・今後の課題は、小中学校の統合。
		・東京から移住して感じたのは、女性が外に飲みに行ける環境があると良い。息抜きができるような(女性が月に1回飲食が無料になる取組→実施しているところもある)。
		・人口の取り合いより、出生数が増えた方が良い。
		・人口増やすために、手厚い養育が必要。
		・子どもの叱り方が難しい。学校の先生は大変そう。
		・福祉の現場では、旭市はフランクに対応できていて、自然と良い関係が築けている。
		・介護スタッフも高齢化により80歳を超える人もいる。
		・なりたい職業に介護士は入らない、よく思われていないため、イメージアップが必要。
交流・繋がりづくりの促進 (イベント開催等)	A	・友人とイベントを開催した。袋公園で飲食店やキッズダンス等を行った。
		・市の後援をもらってイベントを行うこともある。
		・移住促進のイベントに、もっと予算を使っても良いと思う。
		・成田市は小さいイベントを多くやっている。「見てみたい」と思えるイベントをもう少し増やすべき。
		・事業者のイベントを、市がサポートできる仕組み、周知など一元的に管理しPR。
		・イベントで、会社の関係者限定だったのを、一般の人にも入れるようにした。
		・自分が小さい頃、町民文化祭や、体育祭、子ども会など年間を通して楽しいイベントが沢山あった。
		・子どもにとって、合併して広くなった分、旧干潟から市街地が遠い印象。地元のイベント感が無くなった。
		・子どもだけで楽しめるイベントが少ない。
		・重機が並んでいるのを見るだけで、子どもたちは目をキラキラさせている。イベントには感謝している。
	B	・大原幽学でのキャンプや町がスキーに連れて行ってくれるなど、他校の友達もできて良い思い出になった。自分が親になり、子どもをそのようなイベントに送り出したい。
		・仲間がいるから故郷に戻りたいと思う人もいる。
	C	・海上キャンプ場が閑散としている。外で食べるから一層美味しい。専門的な人を置いて、企画やイベントをしてPR。
		・砂の彫刻イベントなども、徐々に疲弊して、イベントが続かなくなり、だいたい持ち出しをしている。
		・昔はキャンプ等があり、魚を取ったり楽しく交流もあった。(子どもの時の体験は大事)
		・主催が地元の人なら、縁があってイベントも続くと思う。(教育委員会が主体となって行える部分もある。)
移住・定住促進、人口減少対応	B	・ホテルが出るような場所でイベントを考えてみては。
		・カブト虫やクワガタを取れる人に場所を教えよう。(昆虫採集)
	C	・将来人口を48,000人としているが、目標は60,000人でも良いと思う。
		・なぜ人口が減少しているのか根本原因を考える必要がある。
スポーツ・健康増進	A	・旧海上中学校の跡地の利用。(分譲住宅など)
		・水道官が延伸されない地域がある。
	B	・水道管の老朽化がある。
		・東総運動場では、高校駅伝や、高校サッカーが行われ有名な選手も来ている。
その他	A	・スポーツの森や、野球場など、市の施設をどう生かしていく。
		・地域のスポーツ関係の取り組みを充実させることが必要。
	B	・体力作りは大事、心の面も成長できる。
		・体力づくりは仕事と結びついている。
その他	A	・企業として存続して、税などで市に貢献することを目標にしている。若者も家を持つことにネガティブ。
	B	・行政と民間との溝が無い。

⑤ 第2回 会場の様子



行政との連携について意見を述べる参加者



3. 全体のまとめ

“旭市のまちづくり”事業者意見交換会 官民連携のまちづくりの実現に向けて					
第1回意見交換会の結果	経営課題	人材確保・育成 (含:学校教育)	市の魅力発信・地域資源の有効活用	原材料価格・人件費等コスト上昇	デジタル化・脱炭素・働き方改革
		従業員の 高齢化対策	人口減少・流出 (担い手不足・マーケット縮小)	各種助成・補助金等の支援	交通アクセス・利便性
	官民連携 まちづくり 取組が考えられる分野	魅力(食・自然)発信・ブランド化	観光・商業・農業振興	企業業績の改善・拡大	空き家・空き店舗の有効活用
		仕事の場づくり・企業誘致・雇用確保	外国人労働者の受け入れ	働き方改革、子育て・福祉支援	公共交通の利便性向上
第2回意見交換会の結果	取組テーマ	主な意見・提案			取組方向・取組例
	魅力創出・発信及びブランド化	○安心・安全な暮らしと住まいをPR。 ○ふるさと納税の返礼品に市の特産品を多数採用。 ○魅力の磨き上げとブランド化(他地域との差別化)。 ○魅力の強力な発信(SNS・メディア発信+バスツアー等のリアル発信、対象:都市住民+市民・特に子どもたち)。			●企業が自社のホームページ等で発信・PR。 ●特産品や商品・技術等を開発・提供、発信・PR。 ●特産品を贈答で活用。
	交流・繋がりの促進	○個別企業のイベント・催事を近隣住民にも開放(企業のPR+コミュニティの醸成、子育て支援・教育)。 ○企業のイベントを市が支援する仕組みがあるとよい。 ※昔は地域でイベント(文化祭・体育祭・子供会等)が多数あり、そこでの家族や友だちとの楽しい思い出が財産。			●自社のイベントを近隣住民等に開放(交流促進) ●近隣企業と連携・共催 ●市は情報発信や集客、各種調整等で協力
	仕事づくり・雇用創出・働き方改革	○企業自らが自社のアピールと従業員募集に取り組む。 ○合同企業説明会の発展と市を挙げた取組(参加企業増加、多様な雇用ニーズの収集・発信)。 ○起業・創業及び副業・兼業の推進と支援。 ○子育てママのちょっとした仕事づくり(お仕事コンビニ)。			●自社の従業員募集サイト(自社のPR)の拡充 ●合同企業説明会参加 ●多様な働き方の実践(子育てママ支援他)
	子育て・福祉の支援及び災害時対応	○子育て支援と教育面(英語教育日本一など)での特徴的な魅力創出・差別化。 ○女性・子育てママの「息抜きの場・環境」の創出。 ○災害時における物資提供等の協力体制の確立(協力企業とできること等の情報共有)。			●自社で取組可能な子育て支援や子ども・学生への職業教育等の支援 ●災害時対応の協力体制への参画と情報共有。
	観光・商業・農業振興	○農畜産業の強みを移住者誘致に生かす(移住者への特典(農畜産物)供与など)。 ○「旭マイスター」(仮):移住・就業希望者と市・地域(自然・名所旧跡・住宅等)・企業等との橋渡し役が必要。 ○インバウンド誘致への取り組み。			●自社サイトでの魅力発信(市のサイトともリンク) ●取引先へのPR ●「旭マイスター」(仮)への登録(含:社員)